



裏手より見た西林寺



西林寺だより

発行元
西林寺門徒総代会
広島県安芸郡坂町
坂東3-14-17
(082)885-0018
iタウンページ
西林寺

杖のことば

花びらは散っても
花は散らない


形は滅びても
人は死なぬ

ふごんかんがく だいいわじょう
普厳勧学と大瀛和上(8)

普厳は村内民衆への教化のみならず、遠近各地から教えを請いにその門に入る者の育成にも心血を注がれました。

文化14(1817)年には「国法御用掛」を拝命され、文政3(1820)年には、本願寺において安居附講を任せられ、『正信偈』を講義されました。文政9(1826)年には「司教」に拝命され、安居副講『往生論註』を講義されました。この頃に住職を僧肇に譲り、隠居の身として、自らの宗学研鑽と子弟の育成、そしてお朝事後の隠居部屋での村内民衆との御示談を核とした生活を送られました。天保2(1831)年には、学階の最高位である「勧学」(広島で4人目)を拝命、翌年には安居秋講に『正信偈大意』を講じ、「年預勧学」として本願寺に常勤され、「諸国安心取締役」の重任を拝命されました。冬講に『十二禮』、春講に『二巻鈔』、本講の講義は『入出二門偈』でした。

その功績により中品尊号(左の写真)を賜りました。



お手代さまの墓参

この度の「本願寺25世専如門主法統継承及び西林寺客殿改修落成慶讃記念行事」の帰敬式に御門主の御手代としてご下向賜りました本願寺名誉侍真、久宝寺御坊願証寺近松照俊連枝が、西林寺境内の西林寺8代住職、普厳勧学の墓にお参りになりました。

この墓参のご縁は、寺報の1面「大瀛和上と普厳勧学」に第13号(令和元年7月1日)から掲載中の「三業惑乱騒動」の折、西林寺の普厳勧学が願証寺の究竟院闡教師(本願寺17世法如門主の実子)への中傷に對して、その声望保全に尽力したことへ感謝の念より参拝したいと願われてのことでした。焼香合掌の後、「末学照俊、正法を保ち後世に伝えてゆくのので、どうぞご安心ください」と墓前にて声高らかに、表白されました。



西林寺寺族 河野ツナ逝去

4月9日を一期として往生の素懷を遂げた寺族「清薫院釋好澄 俗名 河野ツナ」儀、コロナ禍に付きご通知を限定して4月12日に西林寺本堂において、寺葬として厳肅に執り行われました。



西林寺勤行集のご案内

記念法要の参拝記念品として『東岸山西林寺勤行集』を作成いたしました。これは西林寺の法座等で依用される勤行を掲載したもので、お手元の勤行聖典には掲載されていない聖典を集めたものです。

1冊500円にて販売いたします。西林寺あるいはご法座の折、帳場にてお求めください。



法座案内

仏教文化講演会
七月開催予定でしたが
今年は中止とします

孟蘭盆会

八月 十四日(土) 昼席より
十六日(月) 朝席まで
講師 呉市安浦町
信楽寺 広幡康祐 師

秋季彼岸会

九月二十二日(水) 昼席より
二十四日(金) 朝席まで
講師 呉市安浦町
光乗寺 中村啓誠 師

朝席7:00~・昼席13:15~・夜席19:30

編集後記

記念法要が厳肅に修行された直後から、新型コロナウイルスの感染が急速に拡散し、緊急事態宣言も出され、町内にも感染が広がってまいりました。不安な中にも、一筋の希望は、町内のご高齢の皆さまの新型コロナウイルスのワクチン接種が順調に進んでいることです。

相変わらず、先行きは不透明と言わねばなりません。八月のお盆の法座からは通常通り、勤められることを願っています。

聞思録(もんしりく)

コロナ禍の中で訃報の通知も躊躇する昨今ですが、年々に大切な人との悲しい別れが増えてきます。去る4月には、叔母が95歳を一期として往生の素懐を遂げました。被爆の影響からか病弱でしたが、兄弟の中で一番長生きでした。

大腿骨の骨折以降、病院と施設での生活でしたが、最期まで頭はしっかりとしていました。2年前程前、病院から呼び出しをうけ、「もう自発呼吸ができていません。いつ心臓が止まっても不思議ではない状況です」と説明を受けました。3月に入って、とうとう本人の意思に従い「看取り介護についての同意書」に署名、捺印してからは、電話が鳴るたびに「ドキッ」とする毎日でした。しかしまた、看取り介護に入るとコロナ禍以前のようになり、いつでも面会できるようになり、体調のよい日には「先のこと何ひとつ心配ないからね。往くところは決まっているから。すべて仏さまにお任せよ」と笑顔で語り合い、体調のすぐれない時にも見舞う私たちのことを気遣ってくれていました。

「呼吸が弱ってきました。すぐに来てください」との連絡を受け、「いつか」と思っていた最期の時が訪れました。「あともうちょっとの辛抱だからね」と手を握って話そうと思

いながら車を走らせました。それは恩師のご尊父の往生の間際、往診に訪れた同級生の老医師が「ご老院、あともうちょっとだぞ。わしもあとから行くからな」と耳元で囁かれ、それに対して病床のご尊父が手を挙げて答えられた、という話を伺ったことが心底にあったからかもしれません。到着時にはすでに息がなく、話をすることは叶いませんでしたが、このような言葉を交わし合える(いのち)にお育ていただいたことへの感謝を仏祖に対して思わずはおれませんでした。

「杖のことば」に引用した「花びらは散っても花は散らない。形は滅びても人は死なぬ」には「永遠は現在の深みにありて未来にかがやき、常住は生死の彼岸にありて生死を照らす光となる。その永遠の光を感じるものはただ念仏である」と示唆に富んだ言葉が続きます。これは「死んだ先があるのか、ないのか」というような次元とは異なるお念仏のお育ての中に智慧の眼を開かれた世界で初めて語り合えるものです。「俱会一処」という相遇の永遠の世界があるからこそ受け止めです。

お念仏のお育てにあずかった人生は、いかに悲しい別れを迎えても、どれほど理不尽に死が訪れても、浄土に生れるという一点において再び相遇う世界があるのです。それは現在において永遠(真実)に触れる体験でもあります。

ご本山

西林寺が所属する宗門(浄土真宗の宗派)のご本山を「本願寺」といい、京都市下京区堀川通花屋町にあります。

その起源は、京都東山に納骨された親鸞聖人のご遺骨を、覚信尼さま(聖人の末娘)が吉水の北に改葬して廟堂を建てたことに始まります。やがて聖人の祖像(御真影)が安置され、覚如上人が大谷廟堂を寺院化し、本願寺という寺号を掲げて、一宗のご本山としました。

本願寺の「寺法(寺則)」には、ご本山について「この寺院は宗派の本山であり、一宗弘教の根本道場である。宗派に所属するすべての個人及び宗派に包括されるすべての団体によって永世護持される」と規程しています。

ご本山は今日まで幾多の困難な時代にあっても、多くの先人の依って立つ(いのちの羅針盤)として、崇敬され護持されてきました。



門徒総代会定例総会

6月5日に開催予定の令和3年度の門徒総代会定例総会は、昨年に続き、新型コロナウイルス感染症拡散防止のため、書面表決という形で執り行われました。

仏教婦人会 あれこれ

総会及び追弔法要

昨年度は開催を見送り、資料を皆さまに配布して承認をいただいた総会を、新型コロナウイルス感染症対策を行い、4月21日に開催いたしました。

また、総会に先立って、2カ年に亘ってご逝去されました会員38名の追弔法要が厳かに執り行われました。



花まつり

4月6日に開催いたしました。コロナ禍に付き、14時から16時のご都合の良い時間に個々にお参りいただき、本堂内にご安置された、お釈迦さまの「誕生仏」に甘茶をかけて、お釈迦さまの誕生をお祝いいたしました。



初参式延期のお知らせ

5月16日に予定しておりました合同初参式は、新型コロナウイルスの感染防止のため、秋頃に延期になりました。

キッズサンガ中止のお知らせ

7月28日(水)に予定しておりましたキッズサンガは、新型コロナウイルス感染拡散防止のため中止いたします。

仏教婦人会行事案内

- 一 本堂おみぎき 八月十一日(水)
- 二 盆踊り 八月十五日(日)

仏教壮年会 あれこれ

総会

4月3日、開催され、昨年度に引き続き、恒例のお花見は中止しましたが、新たに入会された会員も参加され、コロナ禍での学びのあり方について意見交換をしました。



松の木剪定作業

6月7日より境内の松の木の間伐作業を会員有志が行いました。松の木の剪定は、春は「みどり摘み」、秋には「もみ上げ」という作業をします。「みどり摘み」は新芽の不要な部分を折り、枝がほしいところは軽めに折って残しておく作業です。みどり摘みの作業に適した時期は新芽が伸びるこの時期です。





記念法話
勝法寺 部谷一水師

御手代
本願寺侍真 久宝寺御坊顕証寺
近松照俊師

帰敬式 (5月1日)

本願寺専如門主法統継承及び
西林寺客殿改修落成記念行事



本願寺専如門主法統継承及び
西林寺客殿改修落成記念行事

記念法要 (5月2日)

稚児宿勤行(吉田隆行邸)
稚児出仕者77人

記念法要

「正信念仏偈作法」縁起御依用

記念講演

医学博士 田畑正久師

「医者が仏教に出遇ったら」

